

スーダンの若者の「脱過激化」に挑む取り組み

吉田 祐樹 国連開発計画 (UNDP) スーダン事務所 平和構築・安定化担当官/元ARCインターン

ARC でインターンを行っていた吉田祐樹さんが、4 月から国連開発計画 (UNDP) スーダン事務所の平和構築・安定化担当官として、スーダンは 1955 年から南北間で内戦が断続的に続いていました。2005 年に包括和平合意 (CPA) が成立したのち、2011 年、南部が南スーダン共和国として独立を果たしました。一方で、西部ダルフル地方では複数の反政府勢力が混在している状況です。吉田さんは UNDP で、スーダンの若者がテロ組織や武装集団への参加を防ぐための取り組みを行っています。スーダンのハルツームから、その取り組みについて寄稿していただきました。



以前 ARC でインターンをしていた吉田祐樹です。現在は国連開発計画 (UNDP) スーダン事務所で、平和構築・安定化担当官として勤務しております。2018 年 4 月に赴任してから約 8 ヶ月が経過しましたが、厳しい生活環境に加え、様々な制限の多い仕事環境に戸惑いながらも、

スーダンの安定と発展のために日々奮闘しています。

スーダン共和国はアフリカの北東部に位置し、面積は 188 万平方キロメートル (日本の約 5 倍)、人口はおよそ 4000 万人です。首都のハルツームは、世界有数の大河、ナイル川の白ナイルと青ナイルの支流が合流する地域で、現地の人々はそれを誇りに思っているようです。気候は一年を通して高温・低湿、最も暑い時期は日中 50 度超、湿度は長期間一桁台を推移、雨は年に数えられる程度しか降りません。スーダンの公用語はアラビア語であり、教育水準も低いいため、現地の人々と英語でコミュニケーションをとることは困難なことが多く、タクシーの運転手に行き先を伝えることも一苦勞です。また、スーダンはイスラム教を国教と定めており (ほぼスンニ派)、現地の人たちはイスラムの教えに基づいて日々の生活を営んでいます。例えば、週の休日は金曜日 (お祈りの日) と土曜日、一日 5 回のお祈り、年 1 回の断食 (ラマダン)、豚肉を食べない、禁酒等々、カルチャーショックの連続です。

ハルツーム市内の治安は意外にも安定しており、外国人が夜に一人で出歩いても特に問題はないように感じます。(もちろん、何が起るかわからないので、夜遅くの外出は可能な限り控えています。) そんなスーダンも、数年前までは大規模な内戦下にありました。1956 年に独立を果たしたものの、すぐに北部と北部からの分離・独立を求める南部との間で紛争が勃発し、2005 年に南北包括和平合意が締結されるまでの間、数年間の停戦期間も挟みながら、戦いは続きました。2003 年ごろには、西部のダルフル地方において、アフリカ農耕部族とアラブ系遊牧民族との間の自然資源を巡る衝突が、政府と反政府勢力間の武力衝突に発展し、未曾有の人道危機を引き起こしました。更には、2011 年 7 月の南スー

ダンの独立直前に、国境に位置する南コルドファン州及び青ナイル州にて政府と反政府勢力間の衝突が発生。両州の一部地域は依然として反政府勢力の支配下にあり、現在もスーダン政府との和平交渉が続いています。



ハルツーム市内の様子 (アパートの屋上から撮影)

係る状況下、当事務所はスーダン国内の治安改善・安定化を実現するため、様々な開発プロジェクトを実施しております。日本政府にも長年に亘ってご支援頂いている地域安全・安定化プロジェクト (Community Security and Stabilization Project: 略称 C2SP) では、上述の南コルドファン州及び青ナイル州等にて、特に若者たちの過激化や武装集団への参加を食い止めるため、現地の NGO や政府組織と協働で、職業訓練等を通じた生計手段向上を支援しています。



浦林駐スーダン日本大使と青ナイル州の住民

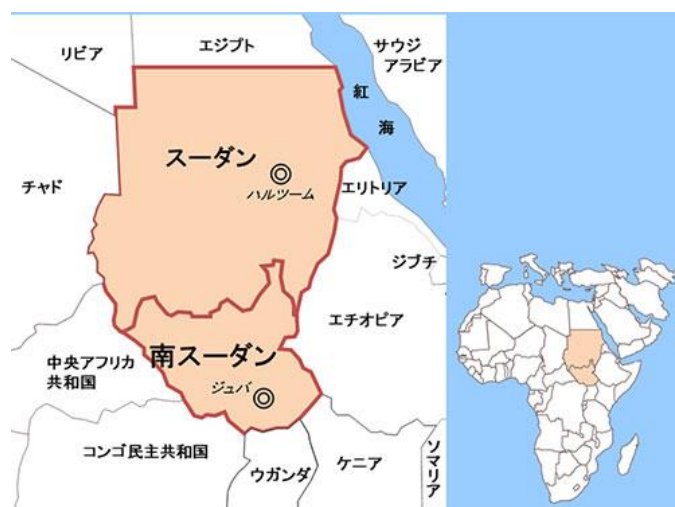
今年 8 月には、駐スーダン浦林日本大使やスーダン国際協力大臣をはじめとする政府関係者を青ナイル州にお連れし、事業現場を見て頂きました。プロジェクトを通し、多数の若者が新たなスキルを習得し、比較的安定して収入を得られる仕事に就いている姿を見て、事業の成果を実感したとともに、事業終了後もその効果を持続させるために、更に知恵を絞っていく必要があると考えています。

C2SP とは別に、当事務所では暴力的過激主義対策を進めるスーダン政府を支援するプロジェクト (Partnering against Violent Extremism: 略称 PAVE) も実施しております。当事務所は、スーダン国家テロ対策委員会 (Sudan National Commission for Counter Terrorism: 略称 SNCCT) と協働で、スーダン国内における若者の過激化理由につき調査を実施しました。過激派、原理主義と聞くと、すぐにイスラム教と結びつけて考えてしまう方も多いかと思います。もちろん、宗教的な要因で過激派組織に加担する若者もいますが、それはむしろ少数で、実際には高い失業率、不均衡な経済機会、社会的疎外感、政府に対する強い不信感等が過激化の理由として考えられることがわかりました。幸い、昨今スーダン国内において大規模なテロ事件は発生していませんが、スーダン人が過激派組織に参加するため隣国に渡り、戦闘員として一定期間戦った後、スーダンに帰還しているケースが散見されています。スーダン政府は、こういった若者の隣国への流出や、自国で自発的に発生する「ホームグロウン型」テロ組織等の結成を未然に防ぐための法的基盤を作るため、暴力的過激化対策のための国家戦略を策定中です。現在、政府、市民社会、学术界、宗教団体、民間セクター等を巻き込んだヒアリングが各州で行われており、当事務所もワークショップの企画、運営、記録等の側面支援を実施しております。更には、過激化したスーダン人の若者の実話に基づく映画を制作し、若者たちへの啓蒙活動の一環として国内外で上映し、大きな反響を集めています。

これらのプロジェクトの力は微力で、様々な課題が山積されている状況ではありますが、一人でも多くの若者が、過激派組織に加担することで未来を奪われ、希望や生きる活力を失うことを防ぎ、むしろスーダンの更なる発展の原動力となってもらうために、これからもスーダン政府への支援を中心に、尽力していきたいと思っていますし、自分自身としても、この経験を今後のキャリアアップへの大きなステップとしていきたいと思っています。



UNDP の同僚と昼食



スーダン共和国の位置

インターン時代を振り返って・・・



私は、2011 年 6 月から 8 月下旬まで、ARC でインターンをさせて頂きました。ARC での経験は、私のアフリカにおける紛争や開発の問題に対する認識と興味を深める有意義な時間でした。

4 年制北米大学を卒業後、アフリカにおける平和構築の研究を行うため、ニューヨーク大学大学院に進学。修士課程在学中には、国連日本政府代表部、国際平和構築 NGO のリベリア事務所、国連開発計画(UNDP)等でインターン経験を積みました。日々新たに学ぶことは多々ありましたが、シンポジウムの企画・運営、広報誌の作成、地域情勢の調査及び資料作成、ステークホルダーへのインタビュー等、ARC で経験した業務が多かったため、業務に圧倒されることも少なく、工夫を凝らして仕事に取り組めたことを評価頂けた時は嬉しかったです。大学院卒業後は、在ケニア日本大使館で専門調査員として 2 年間勤務しました。ARC インターン中に、現地調査でルワンダに行かせて頂いたことがきっかけで、近い将来またアフリカで仕事がしたいと思っていましたので、その意味では理想の職場でした。私はソマリアに対する経済協力・人道支援を主に担当しましたが、ARC インターン時代のルワンダ訪問時に学んだ、市民の声に寄り添う大切さを幾度となく思い出し、現地の人々のニーズを可能な限り反映した支援パッケージの策定に取り組みました。

アフリカ平和再建委員会

Africa Reconciliation Committee: ARC-JAPAN

〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-6-1 四谷サンハイツ 511 号室 Tel./FAX: 03-3351-0892

E-mail: headoffice@arc-japan.org ホームページ <http://www.arc-japan.org>



ツイッター アフリカの紛争と平和に関するイベントや情報の発信をしています！

@ArcJapanNews どんどんフォローしてください！



フェイスブック 日頃の ARC の様子やプロジェクトの近況、アフリカ関連のイベントや情報の発信をしています！

【ARC ページ】 <https://www.facebook.com/ARCJAPAN/> “いいね”、“シェア”をお願いいたします。